

1977年



中島健蔵会長はじめ協会の主な役員が招かれ、ウルムチ、トルファン、イリ、ホータンを訪れた。イリ地区・セリム湖畔で、古来有名なイリ馬に騎乗する井上靖氏(左)、東山魁夷氏

—1977年8月18日



新聞、通信、テレビなど十三社の代表からなる日本報道界代表团が訪中 両国報道界の画期的交流となった。李先念副総理(右一)と会見した廣岡知男団長・朝日新聞社社長(左一)、三浦秀文副団長・中日新聞社会長(左三)、前原九一東京放送専務(右三)ら代表团一行

—1977年5月1日 北京



〈左〉文革以後初めての日本映画人代表团が訪中 上海映画製作所を訪れた木下恵介団長(左三)、吉永小百合(右一)、仲代達矢(右二)、松山善三(左二)、木下忠司(左一)らの諸氏

—1977年11月15日 上海

中島理事長ら協会の指導的人士二行の新疆訪問、日本の新聞、通信、放送主要各社の責任者からなる日本報道界代表团、日本映画人代表団の訪中など今後の発展に意義深い、

弾みをつける交流が続いた。中国では「四人組」粉砕後の体制作りが進み、中共第十一回大会で「文化大革命」の終結が宣言された。「四つの現代化」の実現に向けた新たな歩みが始まり、「四人組」の抑圧から解放された中国文化界との交流に展望が開ける年となった。

〇七七年の主な交流

◎1月 「魯迅展」神戸展(三ノ宮で)開幕、当協会、神戸新聞社、日本経済新聞社主催。日本オペレーションズ・リサーチ学術代表团(団長・松田武彦東京工大教授、団員・森村英典東京工大教授、伊理正夫東大教授、秘書・木村美智子の諸氏)訪中。

◎2月 日本分子性結晶学術代表团(井口洋夫団長・分子科学研究所教授、三川禮大阪大教授、深田栄一理化学研究所主任研究員、戸室道子秘書の諸氏)訪中。「魯迅展」広島展(広島で)開幕。日本書道家訪中参観団(梅舒適団長、中井史朗、稲村雲洞、白鞘霞洋、八木山鈴、恩地春洋、榎本樹郎らの諸氏)訪中。

◎3月 日本「魯迅展」主催新聞社代表团(圓城寺次郎団長・日本経済新聞社会長、白土吾夫秘書長、一力一夫河北新報社社長、若松信重中日新聞社常務、木村美智子の諸氏)訪中。日本出版界友好訪中団、徳間康快団長・徳間書店社長、小峰廣恵小峰書店社長、浅沼博日本放送出版協会社長、原田健太郎(徳間書店)、大久保房男(講談社)、早川繁(文化出版局)、高橋敏正(小学館)、後藤茂樹座右石堂行会社長、藤原斐子(平凡社)、高草茂(岩波書店)、南條正男共立出版社社長、大橋祥宏(日本出版クラブ)の諸氏訪中。日本全国高等学校選抜サッカー選手団(小林與三次団長・日本テレビ放送網社長)訪中。第二回仙台市勤労青年日中友好の翼訪中団(鳥野武団長)一行百三十四名訪

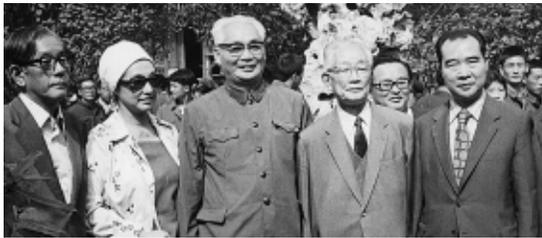
中。

◎4月 日本報道界代表团(廣岡知男団長・朝日新聞社社長、三浦秀文副団長・中日新聞社会長、白土吾夫秘書長、大軒順三日本経済新聞社社長、佐藤達郎時事通信社代表取締役、渡辺孟次共同通信社専務理事、堀四志男日本放送協会専務理事放送総局長、中川英造全国朝日放送取締役副社長、前原九一東京放送専務取締役、上子俊秋日本テレビ放送網専務取締役放送本部長、建部直文北海道新聞社取締役編集局長、青木昭夫読売新聞西部本社編集局長、向井正人西日本新聞社製作局長、渡辺襄毎日新聞社論説主幹、佐藤純子秘書の諸氏)、中国首都報道界の招きで訪中。

◎6月 日本関西文化界代表团(松下隆章団長・京都国立博物館館長、瀧井與志司・陶芸家、芝田稔・中国語学、堀内宗完・裏千家教授、青山茂・日本文化史、新屋英子・俳優、森浩一・考古学、日野西光尊中宮寺門跡、高瀬善明・洋画家、秋山進午・考古学、戸室道子らの諸氏)訪中。日本パレーポール選手団(岡田英雄団長)訪中。「日本現代書道展」北京・中山公園展覽室で開幕、当協会が全日本書道連盟、毎日新聞社と協力して開催。

◎7月 日本出版印刷代表团(下中邦彦団長・平凡社社長、白土吾夫秘書長、岩波雄二郎岩波書店社長、小林清図書印刷社長、相賀徹夫小学館社長、服部敏幸講談社副社長、西中卯吉共同印刷専務、岡安勇治凸版印刷常務、網島昭大日本印刷取締役、滝沢直子秘書の諸

中。



国慶節の園遊会、頤和園で出会った劇作家の陳其通氏(左三)を囲み、協会代表団の藤山愛一郎団長(右三)、木下順二副団長(左一)、白土吾夫秘書長(右一)、高峰三枝子(左二)、鮫島敬治(右二)の諸氏
—1977年10月1日 北京



1966年のA・A作家会議以来、巴金氏(左)と十一年振りの再会を果たした中島健蔵会長(中)。しかしこの再会が両氏の最後の機会となった。右は孟波上海市対外友協責任者
—1977年8月31日 上海

◎9月 日本美術家友好訪中参観団(中根寛団長、田村祥蔵総務、滝沢直子秘書長、平野龍治郎、廣田熙、野見山曉治、藤田忠夫、岡信孝、進藤蕃、大沼映夫、橋本博英、梅澤信二、飯島武次、江村治樹の諸氏) 訪中。中国武術代表団(王亮団長) 一行三十九名、協会の招きで来日、北九州での「西日本中国展」会場はじめ、日本各地で公演。日中文化交流協会代表団(藤山愛一郎団長、木下順二副団長、白土吾夫秘書長、陶山国見、高峰三枝子、加藤周一、山本保、加藤秀俊、三浦哲郎、鮫島敬治、佐藤純子の諸氏) 訪中。日中国交正常化五周年記念・日中平和友好条約

締結促進国民集会(東京・日比谷公会堂)、当協会など四十三団体による実行委員会主催。◎10月 名古屋市博物館竣工記念「中国出土文物展」開催。当協会、名古屋市中、中日新聞社、日本経済新聞社主催。その後、北九州、東京で開催。日本演劇家代表団(杉村春子団長、中村たつ、高田一郎、石澤秀二、鈴木文弥、加藤剛、長山藍子の諸氏) 訪中。講演会「中国・新疆ウイグル自治区—シルク・ロードを訪ねて」(東京・有楽町の朝日講堂) 開催。当協会、朝日新聞社主催、講師に宮川寅雄、藤堂明保、井上靖の諸氏。日本体育友好代表団(前田義徳団長・日本体操協会会長、西堀栄三郎・日本山岳協会会長、石田和外全日本剣道連盟会長、佐橋滋余暇開発センター理事長、弘世徳太郎日本ソフトボール協会副会長、伴七三雄全日本アーチェリー連盟常任理事、田淵和彦日本フエンスンク協会常任理事らの諸氏) 訪中。日本映画人代表団(木下恵介団長・映画監督、佐藤純子秘書長、小林正樹・映画監督、木下忠司・作曲家、佐藤正之・映画製作者、岡崎宏三・撮影監督、松山善三・映画監督、脚本家、熊井啓・映画監督、仲代達矢・俳優、吉永小百合・俳優、横川健秘書の諸氏) 訪中。◎11月 中国体視鏡察団(団長・蔣佑禎) 来日。日本内視鏡学術代表団(相馬智団長・杏林大教授、大塚浄秘書長・日中文化交流協会嘱託、遠藤光夫東京女子医大教授、西沢護千葉大医学部講師、武藤徹一郎東大付属病院医員の諸

氏) 訪中。日本大阪民間放送テレビ友好訪中代表団(坂田勝郎団長・毎日放送社長、福田保朝副団長・朝日放送副社長、芝村源喜副団長・読売テレビ放送専務、齋藤守慶毎日放送取締役、吉田一読売テレビ放送報道局長、鈴木省三朝日放送報道局長、北野栄三毎日放送報道局長、濱田精造朝日放送解説委員室長、鈴木宏読売テレビ放送撮影編集部副参事らの諸氏) 訪中。◎8月 中島健蔵理事長一行(中島理事長、中島京子夫人、宮川寅雄、白土吾夫、井上靖、東山魁夷、藤堂明保、横川健の諸氏)、北京と当時未開放だった新疆ウイグル自治区を訪問。圓城寺次郎氏一行(新井明、木村美智子の諸氏) 敦煌訪問。中国博物館建築考察団(団長・宋汝汝北京市建築設計院院長) 来日。符浩大使歓迎会。

氏) 訪中。中国触媒化学代表団(盧嘉錫団長、閔恩沢、徐文後、謝後帆、周業慎、張宇傑の諸氏)、当協会と化学工学協会の招きで来日。「中国出土文物展」北九州展(北九州市立博物館) 開幕。主催・北九州市、北九州市教育委員会、当協会、日本経済新聞社。◎12月 中国スケート代表団(張恒安団長) 来日。
~~~~~  
「わが生涯最良の旅」とは、中島理事長がこの夏の新疆訪問から帰って本誌に寄せた文章の題である。この旅は中島理事長の十五回目、最後の訪中となった。文中にはそれを予感していたと思われる一節もある。生涯最後のそれが、最良であったことに、幾分心休まる思いがする。「四人組」時代には会いたくとも会えなかった多くの友人たちに北京で再会を果たしたこと、上海で無二の親友巴金氏と実に十一年ぶりの邂逅があったことも「最良」の一角を占めているだろう。出発前、一行は協会の最高指導部を形成するメンバーだったので、フライトを二便に分けて欲しいという声さえあった。当時外国人に未開放だったウルムチ、トルファン、イリ、ホータンを訪れた一行は帰国後、訪問記の執筆、講演会、芸術作品等でそれぞれシルクロードの魅力を紹介した。NHKテレビの特別番組でシルクロードがブームになる三年前のことだった。